

熱中症事件のページ

学校における熱中症に関する事故が相次いでいます。平成30年7月17日には兵庫県で小学校1年生の児童が熱中症により死亡し、7月18日には宮城県の小学校の児童38人が熱中症で病院に運ばれました。さらに、7月19日にも熊本県の全国高校野球選手権の準々決勝で応援していた高校生37人が熱中症疑いで病院に搬送されています。ほぼ毎日、各地で熱中症の被害が伝えられています。平成30年の夏は猛暑日が続く見込みで熱中症による被害もさらに多くなると考えられます。

文部科学省は、平成30年5月に、各都道府県の教育委員会等に対して「熱中事故の防止について（依頼）」を発出し、熱中症は、活動前に適切な水分補給を行うとともに、必要に応じて水分や塩分の補給ができる環境を整え、活動中や終了後にも適宜補給を行うこと等の適切な措置を講ずれば十分防ぐことが可能であることや、熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、早期に水分・塩分補給、体温の冷却、病院への搬送等適切な処置を行うことが必要であること訴えています。

http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1307567.htm

学校における熱中症による事故を防止するためには、過去どのような事故が起きたかを知ることも重要です。そこで、独立行政法人日本スポーツ振興センター（スポーツ振興センター）の学校事故事例検索データベースで、学校管理下における熱中症による死亡・障害事故の発生について調べてみました（平成17年度～平成28年度）。

熱中症による死亡事故は、平成18年度、平成22年度、平成23年度にそれぞれ1件起きています。また、熱中症による後遺障害が残った事故は、平成27年度に1件起きています。

事故の内容は以下のとおりです。

●平成18年度の死亡事故の発生状況

当日、本生徒（中1男子）は体育館（3階）において、バスケットボール部の練習を行っていた。4階ギャラリーを数周走り、3分間のゲームを30分ほど行った。その後、本生徒はタイムキーパーの仕事をしていましたが、具合が悪いと言って交代し、水を飲んだところ嘔吐してしゃがみこんだ。顧問教諭が気づき、他の生徒に涼しいところに移動させるよう指示したが、約5分後、名前を呼んでも返事をしないと連絡があり、状況を確認後、すぐに母親に連絡を取った。数回嘔吐したので、嘔吐物が喉に詰まらないようにし、母親到

着後、母親の車で医療機関へ搬送した。医療機関では、脱水症状で重い意識障害のある熱中症と診断され、集中治療室で治療が行われたが、後日死亡した。

●平成22年度の死亡事故の発生状況

柔道部練習中、午後最後のトレーニング中、熱中症で倒れた（高1男子）。救急搬送後、病院で処置を受けるが、数日後死亡した。

●平成23年度の死亡事故の発生状況

8月の3日間、他の高校での合同合宿（投てき）に参加していた（高1男子）。当日は最終日のため午前中で練習を終了予定で、終了ミーティングを行う前に、本生徒が気分が悪くなり、熱中症の様相を呈していた。すぐに顧問が応急処置をし、救急車で病院に搬送し、加療も受けるも数日後に死亡した。

●平成27年度の後遺障害事故の発生状況

野球部の練習でインターバル走をしているとき、急に高体温になり意識を失った。重症熱中症となった（高1男子）。

ちなみに、学校管理下における熱中症に対して医療費が支給された件数は以下のとおりとなっています。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
幼稚園	9	15	7
小学校	348	451	408
中学校	1,869	1,992	2,038
高等学校	2,204	2,216	2,467
高等専門学校	22	20	20
計	4,452	4,694	4,940

(独立行政法人日本スポーツ振興センター調べ)(平成29年度は速報値)

毎年相当数の児童・生徒が熱中症になっているようですが、今年度はより多くの生徒・学生が熱中症になると思われます。

なお、環境省では、環境省熱中症予防サイトというホームページを開設し、熱中症対策の情報を公開しています。

<http://www.wbgt.env.go.jp/>

熱中症は、最悪の場合、死につながるものです。学校関係者は児童生徒が熱中症にならないよう、また、児童生徒も自分自身が熱中症にならないよう、注意する必要があります。